

看護実践・キャリア 支援センター通信

2016年

Vol.6

臨床実習指導者と看護教員との交流会

本交流会は、よりよい実習指導に向けた取り組みの一つとして、看護学科の教員と実習指導者および病棟師長・主任を対象に領域を超えて情報交換を推進し今後の実習指導における示唆を得ることを目的に実施しました。参加した教員や看護師からは、「交流を深め情報交換を進める好機となった」、「率直な意見交換ができ、意義深い時間を過ごせた」など多数の感想が寄せられ、教員と実習指導者との連携を強化する機会になりました。



がん看護「がん化学療法・放射線療法看護」研修

5回シリーズの「がん看護ステップアップ研修」の第4・5回として、「がん化学療法Ⅰ-Ⅱ」と「がん放射線療法看護」の研修を開催しました。「内服薬の取扱いや分子標的薬の説明がわかりやすかった」「暴露対策について今まで以上に注意していきたい」「放射線治療に特化した講義が少ないのでありがたかった」「放射線治療について理解できていなかったので患者さんの疑問に答えられなかったが、今後活かしていけます」など学びの多い研修となりました。

また、シリーズを通じては、「どの回も内容が濃く、わかりやすい講義でした」、「実践に活かせる」「在宅看護に役立てたい」と学習意欲の高まりが感じられる感想が多数聞かれました。



看護師への心理的ケア技術等向上への支援 「対人援助技術の基礎知識・技術」研修 ベーシックコース

本研修は、昨年に引き続き援助的に関与するための基礎知識・技術を学ぶことを目標として附属病院看護主任を対象に、平成27年12月3日～2月19日まで計5回開催しました。研修は精神看護学領域の橋本顕子講師に担当いただきました。内容は心の構造と機能、心の発達・成長と欲求理論、生涯発達理論などの基礎知識について演習を含めてご講義いただきました。受講者からは「どうしても解決策を提示してしまいがちでしたが、カウンセリング技術を活用して自己決定を導くことが大切だと感じました」などの声があり、本研修の成果が、今後の臨床における患者・家族・スタッフとの対人援助への基礎として活用されていくことを期待したいと思います。



看護学科3年生と看護部スタッフとの懇親会

看護学科学生への系統だったキャリアデザインプログラムの1つである本事業は、3年生の各領域実習がすべて終了する2月19日に看護部スタッフとの懇親会という形で開催しました。高橋センター長による「キャリア発達に向けて」のテーマでのミニ講話をしていただき、グループに分かれ参加看護師の看護体験の語りを通して看護への思いに触れ、自分の看護師像を描けるよう自由にディスカッションを行いました。またお茶、お菓子、サンドウィッチなどを準備し懇親を深めていただきました。



育児休業取得者復職支援「サロン」開設

育児休業取得者に対して、復職に向けての準備のサポートや、復職にあたっての不安への対処ができることを目的に、「サロン」を開催しました。4月・5月復帰予定の看護職を対象に呼びかけたところ3名の希望者があり、3月2日実施しました。総務課人事担当者による制度活用についての説明をいただき、また少し先に職場復帰している2名の看護師と看護副部長に、昼食時間を利用して参加いただき情報提供や交流を行いました。「情報をいただけたことで復帰後のイメージができました。」などの感想があり少し不安も和らいだようでした。



「卒業前看護技術トレーニング」研修

卒業前の学生に対して就職後の看護技術に対する不安を軽減させる目的で本研修を3月8日に開催しました。参加学生数は12名で、主に採血・輸液管理の技術について毎年新採用者の技術研修講師を務めている看護師4名に担当していただきました。少人数ということもあって十分な知識の確認の上、モデルの使用による練習後、実際に学生同士で実施しました。

本研修中、看護学科の教員の見学も行われ、「卒業直前の本研修の効果が期待できるにもかかわらず人数が少ないことが残念です。」とご意見をいただき、次回に向けて学生の動機づけに工夫を要することが確認されました。



「エンド・オブ・ライフケア」研修開催

誰もが安心して人生の終焉を迎えるためにエンド・オブ・ライフケアの考え方は重要です。そこで奈良県で初めて本センターの主催による研修会を平成 27 年 12 月 12・13 日に行いました。ELENEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムによる 10 モジュールにより構成された講義・演習を含め包括的な学習の機会となりました。附属病院と地域の看護師（訪問看護師を含む）30 名が参加され「患者さんの意思決定をさせるという意味がよく理解できた。」「臨死期という言葉の意味やケアについて理解を深めることができました。」などの感想をいただきました。



コラム ヨガの効能

平成 27 年度から看護実践・キャリア支援センターにおいてヨガ教室を開催しております。そこで講師の門脇正次先生にヨガの効能について教えていただきました。

「ヨガは、調身(体)調息(神経)調心(精神)の三要素から成り立っています。この三つはお互いが関わり合って心身の状態を高めていきます。調身は体を動かすことですが呼吸とともに動かします。調息は神経と結がっており体位法と心を整える要素を含んでいます。調心は精神と結がっており体と呼吸に影響を与えます。

この三つはそれぞれの関係を保ちながら三位一体となり融合し体は健康になりおだやかな心を育て充実した人生を生きていくための心身の調和を高めていきます。」

来年度に向けて

本センターは、3 年目を迎え新規事業を加え看護職の皆様のニーズに即した事業を展開していきたいと考えております。事業企画として以下のような内容を考えています。

1. 看護基礎教育
2. 看護職のキャリア支援
3. 看護研究支援
4. 地域看護職へのキャリア支援